

WORLD VISION NEWS

ワールド・ビジョン ティーンズ ニュース

飢餓特別編

1 おなかをすかせ、飢えている子どもたち

◆ 葉っぱしか食べるものがない・・・アフリカ・チャド南部の干ばつ

最近、6才のレアはひどいせきをしています。「栄養が足りないのでは？」そうお父さんのオーガスティンは心配しています。レアの住むアフリカ大陸のチャドでは、特に南部の人々が食料不足に困っています。昨年雨がほとんど降らなかったために、畑の作物が育たなかったのです。レアの家族の畑も、例外ではありませんでした。最近では、家のまわりから拾ってきた木の根や葉っぱをゆでて、わずかなモロコシと一緒に食べて、飢えをしのいでいます。とてもがいがいすし、栄養もほとんどありません。モロコシも、家族全員の分はありません。食事は一日一回です。

今、レアのお父さんは、自分の畑ではなく、近くの畑で働いてわずかな収入を得ています。本当は自分の畑で作物を育てたいのですが、少しでも食べ物を手に入れるためには、現金の収入を得る方が良く考えたのです。「自分たちの畑でも元気に働けるように、食べ物を買わなくちゃいけない。でも、今年も作物はほとんどとれないだろうね。食べてないから力も出ないし、畑仕事が満足にできないんだ。」

何よりも問題なのは、雨がほとんど降らないこと。そして畑の土の栄養がどんどんなくなっていること。どんなに畑でがんばっても、作物は育たないのです。お父さんは、来年こそ自分の畑でたくさんの作物を育てようとはりきっていますが、来年まで食べるものはありません。(ケイト・スキャンネル記者)



◆ トウモロコシがない！ マンゴーばかり食べているホンジュラスのウィルマー

ホンジュラスの南部に住むウィルマーは、この一週間、マンゴーしか食べていません。雨が降らなかったことと気温が高かったことでひどい干ばつが起き、トウモロコシ畑がすべてダメになってしまったのです。今では森で見つけた木の実や果物を食べて飢えをしのいでいます。「毎朝、家族のためにマンゴーを探しに森に行くんだ。もういくつ食べたかわからないぐらい、マンゴーばかり食べてるよ。」ウィルマーは言います。



今日、ウィルマーと親友のミロンは、少しでもトウモロコシがないか、畑へ探しにやってきました。畑はカラカラにわいていて、一粒も落ちていません。やっぱり食べ物はなさそうです。「僕はウィルマーが心配なんだ・・・」ミロンが今にも泣き出しそうな声で話してくれました。「ウィルマーは、おなかがペコペコなのに一生懸命我慢してる。今日はマンゴーを食べたけど、昨日は何も食べてないはず。何とか助けてあげたいけど、どうしていいかわからない。だから一緒にトウモロコシを探しているんだ。」もちろん、ミロンも食べ物に困っています。

毎日食べるものを探して歩いているので、ウィルマーは学校に行っていません。「僕たちは6年生。学校は大好きだし、友だちにも会いたいけど、今は家族を助けるために食べ物を探さなくちゃいけない。お父さんの畑仕事も手伝ってあげないと。僕に特別な力があつたら、川に水を集めるのになあ。今は神様に祈りするしかないよ。」(デビッド・アンブリズ記者)



やってみよう！

レアとウィルマーの話を読んで、次の質問に答えてみましょう。

①レアの家族は、毎日何を食べていますか？

②レアの家では、どうして畑で作物が取れないのですか？

③干ばつが起こる前、ウィルマーたちは何を食べて生活していましたか？

④なぜウィルマーは学校に通っていないのですか？

「1、2、3、4、5・・・」

今、この5秒の間にひとりの子どもが、世界のどこかで、食べるものがないために命を落としています。

飢餓とは、十分な食事を取ることができず、おなかをすかせている状態や、元気に動くエネルギーがない栄養不足の状態を指します。世界では8億5000万人の人々が飢餓に苦しんでいると言われています。そのうち、96%の人々は開発途上国に住んでいます。

開発途上国では、毎年1200万人の子どもたち(5才以下)が亡くなります。その半分以上の子どもたちは、栄養不足が原因で死んでしまうのです。

食料がまったくない状態は、戦争や地震、台風、干ばつなどの自然災害によってもたらされます。こうした場合には、緊急援助活動が行われ、必要な地域に食料が運び込まれます。

もっと深刻な飢餓は、食べるものがあっても、一日に必要なカロリーをとることができない栄養不足の状態が長い間続くと起こります。十分に栄養がとれない状態が続くと、目が見えなくなったり、病気にかかりやすくなります。多くの途上国では、病院に行ったり、薬を手に入れることが難しいので、病気がさらに悪化していきます。そうすると、仕事ができなため、お金が手に入りません。もうどうすることもできなくなってしまうのです。一日に必要なカロリーよりも、300カロリー以上少ない場合、特に深刻な栄養不足であると考えられています。



1歳なのに、体重はわずか5.5kg。栄養失調により、抵抗力のなくなった体を病気がおそいます。(ウガンダにて)



少女は3才になりますが、栄養不良のため立つことができません。貧しいために両親の収入だけでは満足な食事ができないのです。(ミャンマーにて)

栄養不足に苦しんでいる国

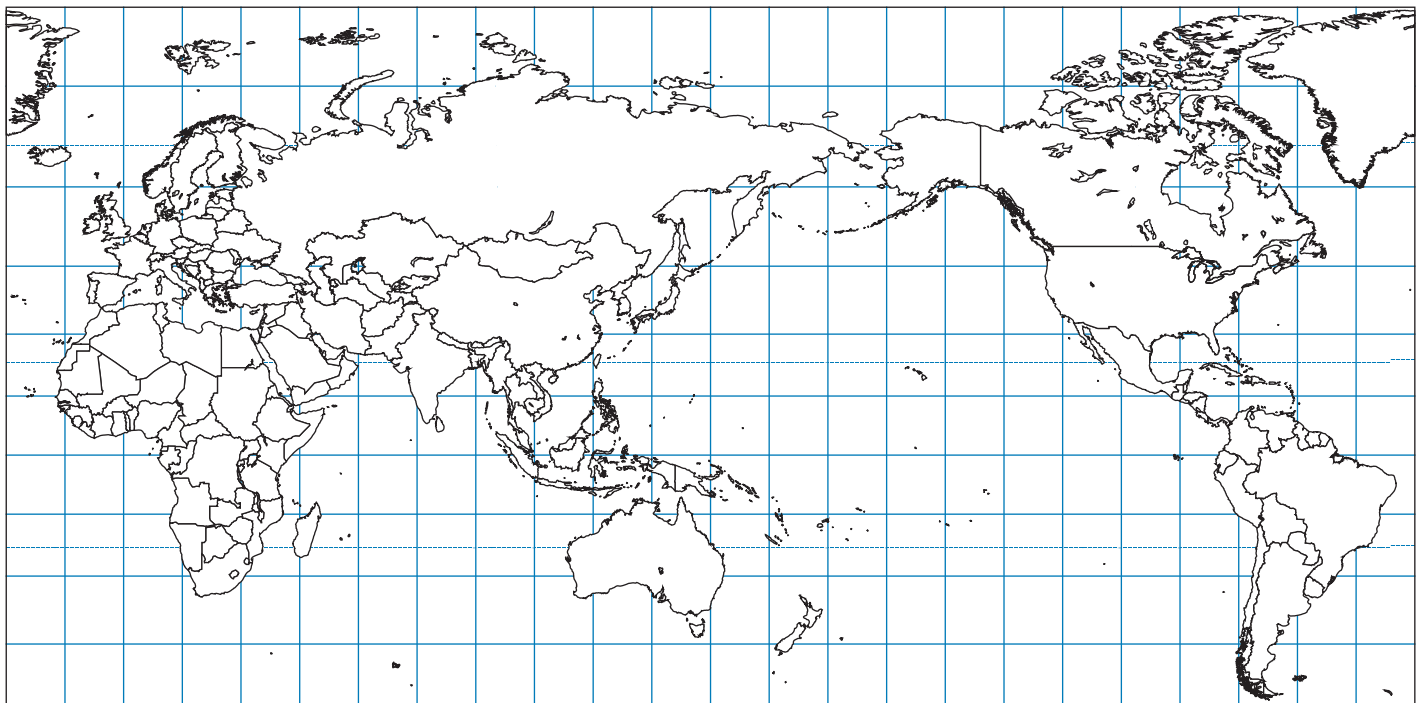
<国名>	<不足カロリー>
1 ソマリア民主共和国	490
2 アフガニスタン・イスラム共和国	480
3 ハイチ共和国	460
4 モザンビーク共和国	420
5 ブルンジ共和国	410
6 リベリア共和国	390
7 コンゴ民主共和国	380
8 シエラレオネ共和国	380
9 エリトリア国	370
10 ニジェール共和国	350

国連食糧農業機関(FAO)
「食料不安の現状2000」



やってみよう!

地図帳を使ってランキング・トップ10の国の場所を探し、色をぬってみましょう。世界のどの地域に、飢餓に苦しむ国々は集中していますか？ その地域の名前は何かでしょうか？





やってみよう!

この写真には、何人の子どもたちがいますか？

人



開発途上国では、健康そうに見えても、半分以上の子どもたちが飢餓に苦しんでいます。毎日じゅうぶんなごはんを食べられないのです。

写真では、何人の子どもたちが飢餓に苦しんでいることになりますか？

人

誰が、ごはんをじゅうぶん食べられない子どもかわかりますか？

はい いいえ

「いいえ」とこたえた人が多かったかもしれませんね。飢餓はかくれています。目には見えないのです。

見た目は健康そうでも、飢餓に苦しむ人々があります。こうした「かくれた飢餓」は、主に「栄養素不足」によって引き起こされます。食べ物はあっても、そこから体に必要なビタミンやミネラルなど、様々な栄養素を十分とることができないときに起こる飢餓です。人間の体は、ビタミンAや鉄分を必要としています。レアのように葉っぱを食べていたり、ウィルマーのようにマンゴーばかりを食べていると、こうした栄養をとることができないのです。栄養が足りないと、目が見えなくなったり、立てなかったり、すぐに病気にかかってしまったり、体にいろいろな影響が出てきます。

●●●●●●●●●● 数字で見る、世界のきびしい状況 ●●●●●●●●●●

1 毎日 **25000人** の人々が飢餓と貧困から亡くなっています。

3 毎年亡くなる **1200万人** の子どもたちのうち、**50%~60%** が栄養不足によって亡くなっています。

2 飢餓に苦しむ人々の **75%** が、開発途上国の農村で暮らしています。

4 飢餓に苦しむ人々 **10人** のうち **7人** が女性か子どもです。

※「世界の飢餓と栄養不足に関する報告書」(2014年)

4 飢餓をなくすために

現在地球上でとれる作物の量は、全世界の人々が必要としている量よりも多いと言われています。ただし、豊かな国にたくさんの食料が集まるので、貧しい国の人々にはわずかな食料しか残りません。こうした不平等を解決するために、そして飢餓をなくすために、様々な取り組みが行われています。世界96ヶ国に事務所を持ち、開発途上国の子どもを支援するワールド・ビジョンというNGOの活動を紹介します。

1. 緊急援助活動で食料を配る

戦争や地震、台風、干ばつなどの自然災害によって、今日食べるものもないような緊急事態の場合には、食料を配ります。国連やワールド・ビジョンのようなNGOが中心となって、食べ物のある国や地域から、必要な分を運び込むのです。

2004年12月に起きたスマトラ沖地震・津波による被害を受けた地域で、食料を配布するワールド・ビジョン・ジャパンのスタッフ



2. 地域開発で工夫した農業を行う

ただ単に食料を配っていても、問題は解決しません。配った食べ物がなくなれば、すぐに次の分を運び込まなければならなくなってしまい、結局その地域の人々が自立することはできないからです。緊急事態ではない場合には、食料を配るのではなく、その地域で十分な作物が育つよう農業の技術指導を行います。かんがい設備を整えたり、その土地の気候や土の状態に合った作物を育てたり、栄養のある食べ物を育てるようにするなど、様々な取り組みが行われています。

ワールド・ビジョンでは、チャイルド・スポンサーシップを通じて、支援地域で農業の技術指導を行ったり、貯水池や用水路を作ったりしています。



ケニアのオレントン地域では、穀類の育て方、ウサギや野ブタなどの家畜の飼育方法、大豆耕作などについて勉強会を開きました。住民の知識や技術が向上し、安定した収穫を得られるようになりました。

ザンビアのチブナ地域では、気候に適したマメ科植物の栽培をすすめ、雨が少なくても収穫を得られるようになりました。他にも、キャベツやトマトなどの種を配りました。



エクアドルのクスバンバ地域では、貯水池を作って雨水や川を有効利用し、スプリンクラーを使うことによって、トウモロコシ・ジャガイモ・大麦などの野菜が栽培できるようになりました。

自分たちの食料にする以外に、多く収穫できた分は販売して、収入も得られるようになりました。



やってみよう!

- ◎「飢餓」について、自分で新聞を作ってみましょう。
 - ・初めて知ったこと
 - ・思ったこと・考えたこと
 - ・他の人に伝えたいこと

- ◎できあがった新聞を、学校や家の壁に貼ってみましょう。そして、友達や家族と「飢餓」について話し合ってみましょう。

3. 貿易の仕組みを変えていく

食料の輸入や輸出は、全世界で行われています。ただし、途上国から輸出されているのは、先進国から要望される紅茶やカカオ、タバコといった商品で、値段が変わりやすく、手数料もとられ、十分な収入にならない場合があります。自分たちで食べるものを育てるのではなく、収入を得るために一生懸命商品を育てているのに、ほとんどお金にならないことが多いのです。

途上国の農民は、とても不利な立場に置かれています。こうした貿易の仕組みを変えていくことも、飢餓をなくすためには必要な取り組みです。

おなかのすいた子どもたち

発行日：2006年8月20日

発行人：世界守

葉っぱを食べて
生きる
チャドのレア!!

昨年雨が降らなかったために
畑の作物が育たなかったレアの
家族は今、家のまわりから拾ってくる
木の根や葉っぱをゆでて、わずかな
モロコシと一緒に食べて生活をしています

これが、1日一回だけ食べられる唯一の食事です!!
来年こそは、自分たちの畑でたくさんの作物を育てたいと願って
いますが、その時まで、食べるものはありません。



毎日マンゴーを
食べているウィルマー
はお金持ち?!

日本では、高価な、フルーツの
マンゴーを、一週間食べ続けている
少年がいます。ホンジュラスのウィルマー
です。雨が降らず、気温の高い日が続いた
ことで干ばつが起き、トウモロコシ畑が
ダメになってしまったのです。

大好きな学校を休み、家族を助けるため
に、毎日森を歩き、食べることでできる木の実
やマンゴーを探しては、飢えをしのいでいるの
です。

川に水を集めて、畑に流すことができるようになる
ことを願いつつ、神様にお祈りしています。



守の8月15日のご飯

朝：パン、目玉焼き、ミルク

昼：冷し中華(キュウリ、トマト
ハム、卵)、ゼリー

おやつ：かき氷
(イチゴシロップ)

夜：ご飯、トウフのみそ汁、
フタ肉、レタス、
ポテトサラダ、すいか

守の日記

8月16日(水) 晴れ



僕は今日、キガを体験してみようと思い、1日ご飯を食べないようにしようと、お母さんと話し合い、決めた。朝ごはんを抜いた後は大丈夫だったが、お昼くらいからとてもお腹がすき、イライラしたり、悲しくなったりした。気分転換に散歩に出かけてみたが、すぐに疲れてしまい、何もしないまま帰って来てしまった。

1日がまんしようと思っていたが、とても耐えられずに夕飯を食べてしまった。大嫌いなピーマンが出たが、とても美味しく、食べることができた。ご飯に感謝した。

世界の栄養不足の中

にいる子どもたち!!

1歳なのに、5.5Kgの
ウガンダの子ども

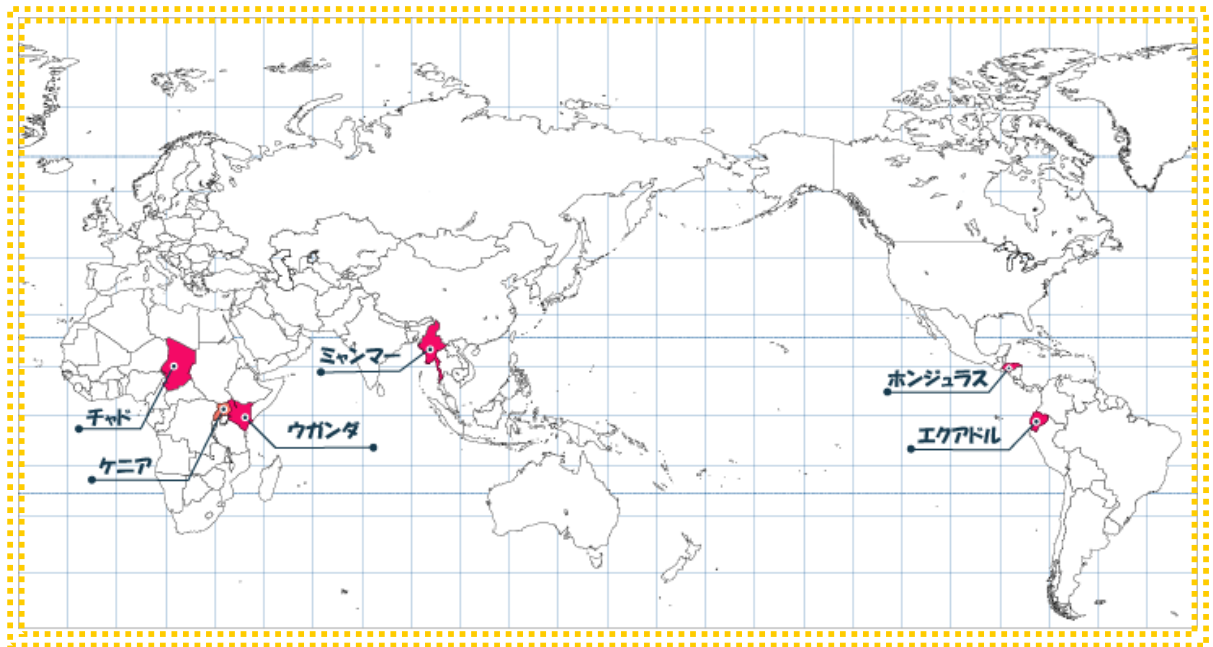
～日本の1歳の平均体重は～
男の子：9.5Kg 女の子：8.5Kg
5.5Kgは、なんと、生まれて
2ヶ月目の平均体重である!!



3歳なのに、栄養不良の為に
立ち上がることのできない
ミャンマーの子ども

～日本の子どもは、1歳くらい
から立ち上がるができる!～





飢餓に苦しむ国は、世界地図の南側に集まっていることが判明しました！



“何もかも”はできなくても、
“何か”はきっとできる。
戦争、飢餓、疫病、災害
犠牲になるのは一歩引いた親の子どもたちです。

ワールド・ビジョンの働き

World Vision

ワールド・ビジョンは、世界 96 カ国に事務所を持ち、
開発途上国の子どもたちを支援する国際 NGO 団体です。

●エクアドル・クスバンバ地域の場合●

貯水池をつくって、雨水や川を利用しながら、スプリンクラーを使い、トウモロコシやジャガイモ、大麦を栽培できるようになった



●ケニア・オレントン地域の場合●

穀類の育て方、ウサギや野ブタなど家畜の飼育方法、大豆耕作などについて勉強し、自分たちで安定した収穫を得られるようになった。



●インド・緊急援助の場合●

2004年12月におきたスマトラ沖地震の被災地で食糧を配布するワールド・ビジョン・ジャパン・スタッフ



感想

ピーマンや、セロリなど嫌いな食べ物は残すか、犬のボチにあげていた。給食の残りは、ティッシュに包んで、ゴミ箱に捨ててしまったこともあった。

Teens News を読んで、世界には食べるものがない人がいること、そのために病気がかかき、立ち上がれない子どもがいることを知り、千ク千クと心が痛くなった。また、新聞を読む前には、ご飯のない人がいるなら、送ってあげればいいと思っていたが、ワールド・ビジョンが、食べ物をあげるだけでなく、自分たちで作ることができるように教えてあげたり、助けてあげたりする活動をしていることを知り、「へえ〜」と思った。5秒に1人、食べ物の不足が原因で死んでしまう子どもがいることを知ったが、この新聞をつくった3時間の間に、2160人の子どもが死んでしまったことになる。この現状を変えるために、ワールド・ビジョンは今日もがんばっている。僕も、まずは、好き嫌いをしないところからスタートすることを今日決意した。